

令和3年度入学者選抜試験問題（総合型選抜）

（地域学部地域学科国際地域文化コース）

「課題論文」出題意図

今年度の課題論文は、坂倉杏介「生きられる場——日常的実践の聖性をめぐって」（アートミーツケア学会編『アートミーツケア叢書2 生と死をつなぐケアとアート——分かたれた者たちの共生のために』〔アートミーツケア学会、2015年〕第3章）からの抜粋である。本資料のなかで坂倉氏は、日本に見られる二重的な世界や近世の「講」などに注目しながらコミュニティの形成、持続について考察している。

問1では、著者の主張の要点を的確に把握できているかを問うた。問2では、日本的な「共同体」やコミュニティの有りようについて、その可能性や課題など、自身の考えを多角的に答えさせることで、受験者が文化を客観的、批判的に捉えられるか、またその上で自分なりの観点を持つことができるか等を問いかけた。

評価の観点は、①資料の要点を読み解く力、②内容の論理的・一貫性や説得力、③文化を観察し考察する力、④文章表現の技法等である。